2022年11月６日実施

# 第５回　合不合判定テスト

# 国 語 問 題

＜試験時間と配点＞
試験時間　50分　　　150点満点

＜注意＞
１．合図があるまでは，問題は見ないこと。
２．答えは，別紙の解答らんに書きなさい。
３．答えの文字は，Ｂあるいは２Ｂのえんぴつで濃(こ)くはっきりとていねいに書くこと。
４．問題について質問のある場合，えんぴつなどを落とした場合，トイレへ行きたくなった場合，気分の悪くなった場合は，だまって手をあげること。
５．字数指定があるものは，句読点や「　」などの符号(ふごう)も一字と数えます。

でてこい、未来のリーダーたち。
四谷大塚

問題は，次のページから始まります。

※ 字数指定のあるものは、句読点や「 」などの符号も一字に数えます。

**1** 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

親から薦められた本を子は読まないものだ。『モーツァルト』や『ベートーベン』、ピアノを習っていたこともあって、「トルコ行進曲」や「エリーゼのために」といった親しみのある曲の作者について知ることのできる伝記本をよく読んでいた。小学校中学年くらいだったろうか。文学少女だった母には「ママがあなたぐらいのときは、世界名作全集を片っ端から読んでいたのよ」とよく言われた。実家からその全集をわざわざ取り寄せた母は、『巌窟王』とか『ガルガンチュア物語』とかそういうものに次々触れてほしかったのだろう。①腹立ちまぎれに「どれだけ伝記を読んだってピアノがうまくなんかならないのよ」と言われたことも覚えている。言い争うことは嫌いだったから母に言い返すことはなかった。

それにしたって気の進まないものは進まない。子供たちを育ててみるとわかるが、子供はひと昔前の古ぼけたものにわりと敏感で、新しいきれいな色の表紙やかわいい絵に自然とひかれるものだ。納戸にあった世界名作全集はだからほとんど読まれることはなかったが、中学に入ってから立ち上げたミュージカルサークルの脚本を書くのには役立った。高三まで続けたこの活動はのちにオリジナル作品を発表したが、最初の頃は『ジェーン・エア』や『果樹園のキルメニイ』などの脚本を書いて公演を始めたのだった。

だから親から薦められた本を、薦められた時に子は読まない、かもしれない。絵本は親が主導できるが、②小学生の読書というのは親がコントロールしようとしても意味がない。わかっていたが昔の読書体験を思い出して、いつか娘が読んでくれたらいいなと買い直した本がある。ライフ＝エスパ＝アナセン『かあさんは魔女じゃない』だった。出会いは小学校四、五年の頃、学校の図書室だ。不思議なタイトルに惹かれて、手に取った本の表紙には野原にどすぐろい黒煙が立ち上り、そこから逃げ去る黒い人影が描かれている。中世魔女裁判とそれによって母親を火あぶりにされた少年の話だった。少年エスベンは、母亡きあと、自分を育ててくれた③ハンスをも、「魔女」の容疑で失う。人間というものの深淵、苦い現実だけがエスベンと読む者に残される。単純なハッピーエンドでもバッドエンドでもなく、味方を失った少年が生きていかなければいけない場所は相変わらず「④この世界」という＊シビアな設定だった。この意味を当時小学生だった私にすべて理解できたとも思えない。ただ、そこに大きな理不尽と、社会や人間のほのぐらい恐ろしさを感じた。深い印象を受け、大人になるまで決して忘れることのない本だった。

（中　略）

人間はかたまりあうと、考えることなどしないものだ。かわりに連中は大きな偏見というものをさずかっていて、それが真実だと思っている。

ハンスが少年エスベンに語った言葉だ。ハンスもまた、エスベンの母のように、薬草に精通し、人々のけがや病気を治すことのできる男だった。そうしたことがこの時代、命とりにつながったのだ。聖はたやすく俗に引きずり降ろされ、悪魔の烙印を押された。それにしても**A**このハンスの言葉が、時代を超えてどこまで

も人間の真理であることの悲しさはどうだろう。大好きな言葉（「ひとりでいることは、全員といることであり、その中の数人とだけいることよりも価値があります」というポール・ムーリスに宛てたBジョルジュ・サンドの言葉）に勇気づけられた心もたちまち萎れてしまいそうになる。「訳者あとがき」で、木村由利子が「十四世紀から十八世紀にかけてのヨーロッパでは、ここで語られたような魔女裁判が実際行われていました。特にドイツがひどかったようです」と青少年向けに解説しているが、ハンスの言葉は、二十世紀ドイツで生み出された＊ホロコースト計画における＊アイヒマン的な思考停止をも連想させる。

　小学校中学年でこの本に出会った私は、その後六年生の学芸会で『走れ！　ロロ』という作品に出てくる「山姥」を演じる。指導の先生によって暗黒舞踏のような白塗りにされて赤い口紅をひかれ、登場と共にどよめきが起きた。魔女狩りの本を読んだことと山姥を演じたことの間に明確なつながりはない。ただ小さい頃から、どこか悪役に惹かれるところがあり、幼稚園の学芸会でも『オズの魔法使い』の「西の魔女」を演じた。そして山姥の英訳はmountain witch（山の魔女）なのだった。こうして振り返ってみると、日の当たらぬ方向にいつも自然と引き寄せられ、その陰を生きる者たちにひそかな共感を持っていたのかもしれない。

　ハンスは自然のなかでその恵みを頼りに孤独に生きる人間だ。時たまやってくる患者たちのお礼のチーズや卵が食卓をわずかに豊かにするが、質素な暮らしだ。こんな場面もある。小舟の上で、裸になったハンスはエスベンにも服を脱ぐことを勧めるが、エスベンは裸が恥ずかしく慣れていないため、「はっきりしないことば」で断る。ハンスは「それが⑤魔女狩りのはじまりさ」と笑う。自分がそうしたいか、したくないか、あるいはなぜそうしたくないのか、という理由もはっきり言えないまま漠然と人は集団の文化や常識のなかで、自他を比較し、バランスを取りながら生きている。集団が穏健なうちはそれでいいだろうが、その常識が偏向していったときには、もはや手遅れであることが多い。＊糾弾者を前にしてハンスはすでに腹を括っていた。しかしなんとかエスベンを逃がす時間を確保し、こう伝える。

「⑥多分、いつかわしたちにも行き場ができるだろう」

　ハンスにすでに行き場がないことは明らかだ。けれど「わしたち」とハンスは言った。まるで死者の声のようだ。そこにはエスベンの殺された母やその他大勢の葬られし異端者たちの声が重なって響いている。

　二〇二〇年八月に、一人の＊ハンセン病患者のおじいさんが亡くなった。きよしさんといった。私は前年に岡山の長島愛生園で彼と出会った。ほぼ同世代ながら岡山市議をつとめる森山幸治さんとその仲間たちが「ここで演奏してほしい」とコンサートを企画してくれたのだ。森山さんは愛生園に通い始めてからきよしさんと親しくなり、「みなで集まれる場所がほしい」というきよしさんの要望にこたえて「さざなみハウス」という海と島と空の見えるカフェを愛生園内に作った。演奏前にカフェに向かうと、カウンターにきよしさんが座っていた。隣でカレーのランチをいただく。カウンターの壁には花の絵が飾られており、きよしさんが描いたという。九十を越えた粋な絵描きのきよしさんはジャズが好きで、前日も岡山市内まで車を飛ばし、いきつけのジャズバーで楽しんだということだった。⑦戦前は船乗りとして南洋の島々まで食料

を運んだという。当時は戦況が悪化し多くの船が魚雷によって沈められた。南方に送られた多くの兵が餓死や栄養失調による病死で戦う前に死んでいったことはよく知られる。そんな南海の孤島にきよし青年たちの船は運良く辿り着いた。そこには痩せた日本兵たちが待っていた。一人の日本兵に、ものも言わずきつく抱きしめられたという。戦争は終わり、きよしさんは発病してこの島（長島）に来た。住人たちの自治会にも入らない異端児だったという。ここにも群れを離れた、一人立つ人がいた。

きよしさんが死んだことは、森山さんがフェイスブックにあげた葬儀の様子を撮影した短い動画で知った。そこでは生演奏が行われており、曲は「聖者の行進」だった。誰もが知るこの明るい曲を葬式に指定するなんて、やはり粋な人だったんだなと思ったが、曲について調べて驚いた。これはニューオーリンズの黒人たちの間で行われる、ジャズ・フューネラルといわれるパレードのような音楽に満ちた葬送に際し、よく演奏される曲の一つだという。まったく知らなかったが歌詞も「魂が天に帰るとき、自分もその列に入っていたい」というような意味だ。いろいろと解釈できるだろう。天国にコメントを求めにいったら、案外「いちばん好きだから。しめっぽいのはいやだからさ」と言ったりするのかもしれない。黒人たちの音楽が、暗い境遇から生まれたことは疑いようがないだろう。それでも、彼らの歌は、悲しみをメロディに託し、生きのびる術であると同時に、娯楽であり、癒しであり、力そのものであったのだと思う。きよしさんがこの歌を選んだのも、黒人たちの負をはねのけるようなパワーへの強い共感があったような気がする。きよしさんを支えたのが、同世代の森山さんたちだったこと、彼らが「いろんな人を長島に呼びたい。いつか芸術祭を開いて愛生園の歴史やそこで生まれた文化を多くの人に知ってもらいたい」と考えていることに、大きな希望を感じる。

「いつかわたしたちにも行き場ができるだろう」

幼い日に出会った「異端者」の言葉は、終わりが始まりであり、⑧絶望が希望へと続く道の始まりであることを教えてくれる。

（寺尾紗穂の文章より）

＊　シビアな…きびしい。
＊　ホロコースト…大虐殺。特にナチスによるユダヤ人大虐殺を指す。
＊　アイヒマン…ナチスの将校。数百万人におよぶユダヤ人の強制収容所への大量移送に指導的な役割を担った。
＊　糾弾…罪の責任を問いただし、厳しくとがめだてすること。
＊　ハンセン病…癩菌の感染によって起こる慢性感染症。今では完全に治る。長い間、ハンセン病患者は、隔離された施設に追いやられ、自由を奪われ、社会的差別を受けてきたが、現在では重大な人権侵害であったことを国が認めている。

**問一**　――線①「腹立ちまぎれに」とありますが、

1　「腹立ちまぎれに」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　腹立ちが高じて　　　イ　腹立ちを抑えて
ウ　腹立ちをごまかして　　　エ　腹立ちも混ざって

2　筆者の「母」がこうした心情を抱くようになったのはなぜですか。文章中の言葉を使って六十字以内で答えなさい。

問二　――線②「小学生の読書というのは親がコントロールしようとしても意味がない」とありますが、なぜですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　小学生には親のしつけは重要だが、読書の面での親の好みの強要は子供の反感を買うだけになるから。

イ　小学生は日ごとに成長していくものであり、その過程で親に反発するようになるのは自然のことだから。

ウ　小学生ともなると読書についての子供の好みや関心は親の予期せぬ方向に向かうこともあるから。

エ　母親が文学少女であっても、親と子は別人格であり、同じ読書体験を子に望むのは親のエゴにすぎないから。

問三　――線③「ハンスをも、『魔女』の容疑で失う」とありますが、

1　ハンスはどんな人ですか。ハンスについて説明した言葉を文章中から二か所、(1)二十二字と(2)二十五字で探し、それぞれはじめと終わりの五字をぬき出して答えなさい。

2　ハンスはなぜ『魔女』の容疑で殺されたのですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　もともと悪魔の仕業とされた、薬草についての知識を用いて病気を治す行為をしていたことで、人々に恐れられたから。

イ　孤立を恐れず質素に徹した生活は、贅沢を貪る人々にとっては自分たちの生き方を否定するものと感じられたから。

ウ　周囲の者と打ち解けようとせず、人々が理解できない知識や技術を持つことが反社会的だと思われたから。

エ　人々の知らない技を身につけ、人々と群れないでいることから、皆とは異質な存在と思われ、排除の対象となったから。

問四　――線④「この世界」の説明として**適切ではないもの**を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　価値の転換がかんたんに起こり、人間の恐ろしさが垣間見られる世界。

イ　集団となった人間がきちんと考えることをやめていて、大きな理不尽がまかり通る世界。

ウ　わかりやすい幸福な結末も不幸な結末もなく、異端者が孤独に耐えながら生きのびていく世界。

エ　人々が、自分自身が偏見を持っていることに秘かに後ろめたさを感じている世界。

問五　――線A「このハンスの言葉」と――線B「ジョルジュ・サンドの言葉」の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　Aは、人間は集団になると偏見を持つという、どのような時代でも通用する普遍的な「真理」について語られた言葉だが、Bは、その時代でしか通用しない「常識」について語られた言葉である。

イ　Aは、集団になると思考停止するという人間の恐ろしさを語る言葉で、一人でいる者の心をくじくが、Bは、人間に対する信頼感が前提にあり、一人でいても大丈夫だと感じさせる言葉である。

ウ　Aは、集団から離れて一人でいることを批判し、集団の一員となることを促す言葉であるが、Bは、数人の仲間としか交流しないことを批判し、多くの人と交流することを促す言葉である。

エ　Aは、集団の中にいても一人でいても大きな偏見を持ってしまう人間の悲しさを言い表した言葉で、読む者の心を萎れさせるが、Bは、人間の心の美しさを説き、読む者を勇気づける言葉である。

問六 ――線⑤「魔女狩りのはじまり」にあたるものとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の味方である人の熱心な勧めや助言に背を向けること。
イ あえてはっきりしないことばを使うことで自分の意思を通すこと。
ウ 自分で考えることなく集団の文化や常識に従ってしまうこと。
エ 自他の比較をやめて、集団でのバランスを気にせず生きること。

問七 ――線⑥「多分、いつかわしたちにも行き場ができるだろう」とありますが、ハンスが「わしたち」とした理由を筆者はどのように考えていますか。これを説明した次の文の□にあてはまる言葉を文章中から二十五字以上三十字以内で探し、はじめと終わりの五字をぬき出して答えなさい。

・死を覚悟したハンスは、自分自身を［二十五字以上三十字以内］に連なる者としてとらえているから。

問八 ――線⑦「戦前は～沈められた」という状況で、きよしさんは奇跡的に生還しますが、これを次のように表した場合、二つの□に入る数字を考えて、その和を漢数字で答えなさい。

・□死に□生を得る

問九 ――線⑧「絶望が希望へと続く」とありますが、このことの具体例にあたることが述べられている連続する二文を文章中から探し、はじめの七字をぬき出して答えなさい。

問十 筆者が自分のことを省みて、自分の感じ方や考え方のもとにあるものがどのようなものかについてくわしく述べている一文を、文章中から探し、はじめの五字をぬき出して答えなさい。

問十一 筆者の考えに合うものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間には少数派や異質な存在を差別し排除しようとする傾向があるが、差別を受けた人々が、彼ら自身も含めた異端者たちの生きる力となるものを生み出していることに、希望を見出している。
イ どんなに善良な人間でも、何かをきっかけに少数者に対する糾弾者になり得るので、自分とは好みや意見が異なる人々の存在を気持ちよく受け入れられるように自分を律していく必要がある。
ウ 黒人の音楽のように、新しい文化は大いに苦しんだ人々の中から生まれるので、自分も迫害されている人々の思いを演奏によって代弁することで新しい文化の創造に努めたい。
エ 中世の「魔女」やユダヤ人のように、いつの世にも迫害される人々がいるが、苦難の道を歩んだ人々に思いを馳せながら、今も迫害されている人たちへの支援の輪を広げていきたい。

問十二 この文章の題名としてふさわしい言葉を文章中から八字でぬき出して答えなさい。

2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

科学は、文明発展の原動力である。農業や工業は科学によって支えられ、文明的な生活は農業や工業の発展によってもたらされた。人類がこれほど繁栄したのは、食料増産に成功し、医学や薬学の発展によって健康が守られるようになったからである。人々が科学に信頼をおくのは、その実績からして当然のことだと考えられる。しかし一方で、信頼しすぎる問題もある。科学の限界を考えあわせたうえでの適切な対応が望まれる。

科学に対する妥当な見方を築くには、科学的な考え方はどのように*発祥したのかを把握しておくことが大切である。これについても、狩猟採集時代にさかのぼれる。

狩猟採集時代は食べ物が少なく、狩猟や採集を協力して行っていたことは前に述べた。採集の対象は主に木の実と根菜であっただろう。それらが熟す時期になれば大勢で採集に出かけたのだ。そのとき、遠目に見れば実り具合がわかる木の実に対して、イモなどの根菜は地中にあり、適切な時期に掘り出すのがなかなか難しい。

しかし、何度か成功と失敗をくり返している間に、規則性のあるパターンが見出せる。「花が咲き終わり、茎が枯れ、三昼夜してから掘り出すと最もおいしい」などの、法則が発見できるのだ。もちろん、植物の種類や、その年の天候の状態によってもバラツキがあるが、かなり有効である。またやがて、半分だけ掘り出して、残りは次の年のためにとらずにおくなどの知恵も見出したにちがいない。

この手の知恵は協力集団の資産になる。やみくもに掘り出す集団は食べ物を失って絶滅してしまったのに対して、知恵を引き継げる集団は食べ物を確保し続けられた。私たちがそうして生き延びた集団の*末裔であることは言うまでもない。

このように科学とは、[a]の中からパターンを探し、未来を予測して生き延びるのに適切な状態を作り出す方法である。確実なパターンを発見できれば、[b]として有用な[c]になる。長年使われてきた[c]ならば、その集団のみんなが信じる[d]となるわけだ。

では①どんな知恵ならば有用なのだろうか。未来をうまく予測できる普遍的な知恵のほうが、より貴重であった。たとえば、ある地域でイモの隣に別の植物が自生しており、その植物の赤い花が咲くと、イモが食べごろになったとする。その地域に生きる私たちの祖先は、「赤い花が咲いたときにイモを掘る」という知恵を伝承したにちがいない。

ところが、獲物を追って別の地域に移住すると、そこではイモはあるが、赤い花の植物は自生していないかもしれない。「赤い花」の知識は地域限定で普遍性に欠け、使えないことになる。いつまでも「赤い花」の知識を持ち合わせていると、*フェイクに惑わされている人たちになってしまう。

また、未来予測だけでなく、未来をコントロールできる知恵はさらに有用である。「イモの葉に光が当たっていると、より大きなイモが育つ」と発見できれば、日陰を作ってしまっている石をどけるなどの作業をすれば、大きなイモを得られる。今日の私たちは、葉に含まれる葉緑体が光のエネルギーを使って、二酸化炭素と水から養分を作っているという科学的知識を知っているが、最低限〝使える知恵〟になっていればよいので、「太陽神がイモの葉に祝福を与えるとイモが大きくなる」という形式でもよいのである。

迷信のように見える形式の知恵であっても、私たちの祖先の経

験がぎっしり詰まっていることがあるので、②フェイクとして一刀両断で廃棄するのは考えものである。

　以上で述べたように、科学は生活上有用な知恵から発祥している。そのため「科学の知恵」を「科学の体裁をもったフェイク」と見分けるには、それが未来を予測したり未来をコントロールしたりできるかという有用性の点から判断するのがよい。これが科学的思考の本質である。

　経験から見出されるパターンは、再三確かめられて確実に使えることがわかれば、〝法則〟と呼べるほどになる。［1］、実際のところ理論は、それほど確実でない段階を長い間たどっていくものである。それを確かめるのに時間がかかるからである。科学界では、不確かな段階のパターンを〝仮説〟と呼んで区別する一方、少しでも確実さが見込まれると〝理論〟と呼んでいる。［2］、〝理論〟は、少々不確かなものからかなり確実なものまで、信頼性が多様な状況になっている。

　理論における信頼性が多様な状況が、フェイクの＊蔓延に関係している。もう一度、人のイモ掘りの事例で考えてみよう。

　まず、何も経験的なパターンを探そうとしない人は、理論をもたずに適当にイモを掘ってしまう。それでは、偶然を超える確率でイモを掘りあてることはできない。一方、理論をもってイモ掘りに臨む人は、理論のよし悪しは別にして、少なくとも偶然かそれ以上の確率でイモを掘りあてることになる。適当に掘るよりも、理論を考えてからそれに従って掘るほうが有利なので、人はどんどん理論を考えるようになったのだ。

　そのため、複数の理論が並立するようになる。「茎が枯れてから三日後」「赤い花が咲いたとき」「東の空に流れ星が三つ落ちたとき」などなどである。これらの理論はその後の検証作業によって、確実さの優劣がつけられる。たとえば、「流れ星が三つ落ちたので掘ってみたが、大きなイモは得られなかった」という経験により、流れ星理論は信頼性が低いと判断していくのだ。

　この検証作業は一筋縄ではいかない。先に述べたように、地域によっては「赤い花が咲いたとき」が有効に働くので、その理論が他地域では信頼性が低いことは明るみに出ない。［3］、イモ掘りならば毎年できるが、大地震などのめったに起きない災害の場合、ほとんど検証ができない。過去の経験から、「東の空に流れ星が三つ落ちたときに大地震が起きる」と理論化されても、それを反証する機会がなかなかないのである。

　この事情により私たちは、多くの理論が並立する状況に直面しやすくなるのである。③理論はもともと、信頼性に関して優劣があるものだ。そして科学は、その優劣判断の手がかりを集めて公開しているので、それに従って理論を取捨選択すれば大方よい。ところが、その知見は一般市民になかなか伝わらないのが現実である。

　加えて私たちは、理論の優劣を科学的な手がかりによって推し測るよりも、もっと手軽な理論選択方法を身につけてしまっている。それは、「自分が理解でき、使える理論がいい理論」である。これがたびたび問題をひき起こすのだ。［4］、前述した「葉緑体の養分作成機構」と「太陽神の祝福」という理論を比較すると後者の方が直感的に理解しやすい。

　一方、本章の冒頭に述べた〝朝散歩〟や資格試験参考書の例では、〝使える理論〟への拡大解釈が起きている。〝朝散歩〟をする（原因）と年取っても健康である（結果）とか、その参考書で勉強する（原因）と資格試験に合格する（結果）とかの、因果関係を示す理論として解釈されている。

本来、因果関係を示す理論は、使える理論かどうかをチェックできる理論なので、信頼性の判断のうえで〝筋のいい理論〞なのである。つまり、［　　　　　　　　］とか、＊当該の参考書で勉強した人と別の参考書で勉強した人で資格試験の合格率を比較するとかをすれば、科学的に理論の信頼性が判明する。

しかし、一個人でこうした実験をすることは不可能であることもあいまって、「すでに有効と判明した理論」と誤解して、多くの市民がその誤った因果関係に従って、〝朝散歩〞を始めたり、当該参考書を買いこんだりしてしまうのである。

私たちには、生活を改善するために、どんどん理論を作って確かめるという姿勢が進化した。理論を確かめる作業には人々の協力と時間が必要であるため、文明社会では科学の営みの形で、その仕組みを確立した。ところが、確かめる作業が済んでいるかどうかは、現代でも一般市民には必ずしも明らかではない。そのため、確かめる作業が済んでいると誤解させるフェイクが蔓延しやすいのである。

（石川幹人「だからフェイクにだまされる　――進化心理学から読み解く」〈筑摩書房〉より）

＊発祥…ものごとの起こり。始まり。　＊末裔…子孫。

＊フェイク…にせもの。まやかし物。

＊蔓延…好ましくないことが伸び広がること。

＊当該…いま話題になっていることがら。そのことが関係しているものごと。

**問一**　次の一文は、この文章のある形式段落の最後にあったものです。この一文を戻す場所の直前の五字をぬき出して答えなさい。

> どちらも、イモの成長に使えるのならば、〝理解しやすい理論〞が好まれる。

**問二**　［a］～［d］にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。ただし、二か所にある［c］には同じ言葉が入るものとします。

ア　［a］…知恵　［b］…常識　［c］…法則　［d］…経験
イ　［a］…経験　［b］…常識　［c］…法則　［d］…知恵
ウ　［a］…知恵　［b］…法則　［c］…常識　［d］…経験
エ　［a］…経験　［b］…法則　［c］…知恵　［d］…常識

**問三**　――線①「どんな知恵ならば有用なのだろうか」とありますが、この問いかけに対する答えにあたる言葉を、「知恵」につながるように二十三字で探し、そのはじめと終わりの五字をぬき出して答えなさい。

**問四**　――線②「フェイクとして一刀両断で廃棄するのは考えものである」とありますが、「フェイク」である可能性が一番高いと筆者が考えるものを次から選び、記号で答えなさい。

ア　イモの葉に光が当たっていると、より大きなイモが育つ。
イ　東の空に流れ星が三つ落ちると、大きいイモが得られる。
ウ　太陽神がイモの葉に祝福を与えるとイモが大きくなる。
エ　茎が枯れて、三日後に掘り出すイモが最もおいしい。

**問五** [1]～[4] にあてはまる言葉を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア　しかし　　イ　たとえば　　ウ　つまり　　エ　なぜなら

オ　また

**問六** ――線③「理論はもともと、信頼性に関して優劣があるものだ」とありますが、どういうことですか。何によって「優劣」がつくのかがわかるように、六十字以内で答えなさい。

**問七** [　　　]（109行め）にあてはまる内容を、三十字前後で考えて答えなさい。ただし、「朝散歩」という言葉を必ず使うこと。

**問八** この文章は、「だからフェイクにだまされる　――進化心理学から読み解く」という本の一部です。「フェイク」が蔓延しやすい理由として**適切ではないもの**を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　直感的に理解しやすくて使える理論を一般市民は受け入れてしまうから。

イ　因果関係を示す理論は科学的に信頼性を判断できないにもかかわらず、多くの人に受け入れられてしまうから。

ウ　理論は、少々不確かなものからかなり確実なものまで、信頼性が多様な状況になっているから。

エ　理論の信頼性を検証することは一般市民には困難なものが多いから。

**問九** 次の各問いに答えなさい。

1　この文章を大きく二つの部分に分けるとすると、どのように分けるのが適切ですか。後半の部分のはじめの五字をぬき出して答えなさい。

2　文章の前半部分と後半部分に、次のような小見出しをつけます。[A]～[D]にあてはまる言葉を文章中からそれぞれ指定の字数でぬき出して答えなさい。

〈前半〉[A　五字]が、[B　五字]をもったフェイクを見破る

〈後半〉多様な理論が[C　四字]状況と、理論を[D　六字]の難しさが、フェイクを生む

**3** 次の各問いに答えなさい。

**問一** 次の1～4の言葉は、後にあげたア～エのどれにあたりますか。それぞれ記号で答えなさい。

1　食べれる　　2　乗れる　　3　立てる　　4　駆ける

ア　可能動詞である。

イ　可能動詞ではなく普通の動詞である。

ウ　可能動詞としても、普通の動詞としても使える。

エ　文法的に間違った用法である。

**問二** 次の1～4の熟語の読み方は、ア＝「音・音読み」、イ＝「訓・訓読み」、ウ＝「音・訓読み（重箱読み）」、エ＝「訓・音読み（湯桶読み）」のどれにあたりますか。それぞれ記号で答えなさい。

1　魚肉　　2　毎朝　　3　雨具　　4　浜辺

**問三**　次のア〜オの言葉を、国語辞典に出ている順に並(なら)べかえ、記号で答えなさい。

ア　次第(しだい)　　イ　下唇(したくちびる)　　ウ　自宅(じたく)　　エ　下書き(したが)　　オ　支度(したく)

**4**　次の1〜10の――線部のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

1　貸し借りを**セイサン**する。
2　体育の授業で**キカイ**体操(たいそう)をする。
3　**アッカン**の演技だと賞賛された。
4　祖父は**オンコウ**な性格だ。
5　落ちていた**サイフ**を交番に届(とど)ける。
6　ノートの**ヨハク**に絵を描(か)く。
7　十年かけて小説の構想を**ネ**る。
8　大山**鳴動**して鼠(ねずみ)一匹(ぴき)。
9　浴衣(ゆかた)の**反物**からシャツを仕立てる。
10　留学先のドイツで**知己**を得た。

**問題はこれで終わりです。**

01-2022-6R05-100-1-032-001-01
19048351

得点

# 第5回合不合判定テスト　六年　国語　解答用紙〔男子〕

（2022・11・6）（3の1）

氏名

1

問一

1

2

問二

問三

一

(1)

(2)

2

問四

問五

問六

01-2022-6R05-100-1-032-001-02
19048351

# 第5回合不合判定テスト 六年 国語 解答用紙〔男子〕

（2022・11・6）（3の2）

氏名

2

問七 10 〜

問八 11

問九 12

問十 13

問十一 14

問十二 15

問一 16

問二 17

問三 18 〜 知恵

問四 19

問五 1 20 2 21 3 22 4 23

問六 24

でてこい、未来のリーダーたち。
四谷大塚

01-2022-6R05-100-1-032-001-03
19048351

# 第5回合不合判定テスト　六年　国語　解答用紙〔男子〕（2022・11・6）（3の3）

氏名

問七 25

問八 26

問九 1 27 2 A 28 B 29 C 30 D 31

**3**

問一 1 32 2 33 3 34 4 35

問二 1 36 2 37 3 38 4 39

問三 ↓ ↓ ↓ ↓ 40

**4**

1 41 2 42 3 43 4 44 5 45

6 46 7 る 47 8 48 9 49 10 50

でてこい、未来のリーダーたち。
四谷大塚